

終了報告書

留学プログラム名	G20 Youth Forum 2014 Youth Summit Minister of Culture
所属(本学)	総合理工学研究科 人間環境システム専攻 修士2年
留学先	Germany Garmisch-Partenkirchen
プログラム実施期間	2014年5月7日～2014年5月11日
滞在期間	2014年5月6日～2014年5月14日

① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)についての概略

G20 Youth Forum は G20 加盟国の優秀で活動的な学生/若手の議員と大学の教員などの知識人を一同に介し、現世界の課題をテーマとし意見交換をすることを通し、(昨年の G20 参加者が来年度のテーマを提案する) 有益な人間関係の構築を目的とする場である。学生が参加する主要なイベントは主に 3 つあり、自身の研究内容を発表しそれをもとに議論をする Conference、あらかじめ選択したテーマについて各国の大臣を担当する学生 20 人ずつが 1 日半かけて議論をする Summit、Summit と Conference の参加学生が共通のテーマについて 2 時間ほど議論をする Joint Session、



Garmisch Partenkirchen の G20 会場前

ビジネスアイデアをプレゼンし金銭的支援を獲得するチャンスがある Mentorship Program がある。私は Summit へ文化大

臣として参加した。議題は以下の今年のテーマのうち三番目である。

1. Entrepreneurial Climate for Youth
2. Family and Career Opportunities for Young People
3. Accessibility of Education and Human Rights
4. Food Security and Resources of the Future
5. Tax System and Living Conditions for Youth

G20 Youth Forum 2014 の企画管理をしている G20 Youth Forum IOC や G20 Youth Forum Alumni は選考、宿泊先準備、イベント中のスケジュール調整などすべてを統率している。イベントの準備体制は(ドイツの国柄の影響もあってか)ほぼ万全であり、初日に会場へ着くとイベント期間内の分厚いスケジュール帳が渡された。よってイベント中移動



Opening Ceremony の様子

動や各ホテルの会場で行われる Summit 等の開催場所を見つける際に困ることはなかった。

本プログラムの費用は、プログラム参加: 約 14 万、旅費: 約 11 万、その他(移動や観光): 4 万、保険料: 約 4000 円、ドレスと民族正装レンタル費用: 2.5 万程かかり、高めであると思う。東工大基金から 6 万円の補助をいただくことができた。

② 留学前の準備

事前準備は、まず学内選考を受けるための書類作成から始まる。今年は、募集人数 Conference と Summit 各 10 名程の所、学部から博士の女子計 4 名が受験し皆合格であった(彼女たちとは大変仲良くなった)。当時私は Conference へ応募していたのだが学内選考を経て Summit への応募の推薦を受けた。私の専攻学科は G20 が募集していた international affairs, economics or finance のいずれの学科とも合致しないため、Summit へ応募しても G20 Youth Forum へ行けるチャンスが減ってしまうのではと考えたが、200 名の学生の一人ではなく日本の大臣代表としてより各国の参加学生とより密に議論することができる Summit を経験したいと、志望を変更した。志望変更に合わせて motivation letter を書き直し Minister of Environment として応募したが 1 週間ほどでその枠は埋まってしまったとの連絡があり、他の大臣枠を受験するよう促された。次に受けた Minister of Education も埋まってしまっていたがその時点で、Head of Sherpa か Minister of Culture の間で選

ぶことが出来た。普通の選考よりも時間がかかってしまったように感じたし、motivation letter は計三回書き直し、推薦状も幾度も大学に書き直してもらわねばならなかったため留学が決定するまでの資料準備は正直時間がかかった。しかし、準備も含め良い経験になったと思う。

合格後には、文化大臣として G20 Youth Forum へ参加できるよう文科省のサイトや白書、日本についての英文解説書を読むなどして日本文化に対する知識をつけるようにした。留学中や Summit の議論の場では日本文化について説明する機会や文化大臣としての発言を求められるよりも、各々個人が課題についてどのような考えを持っているかが重要視されたため、学びが役に立つことはあまりなかったが、わたくし個人の勉強にはなったと言える。ドイツ語の勉強はしていないが、G20 Youth Forum での公用語は英語、町でもある程度英語が伝わったので問題を感じることはなかった。

③ 留学中の活動及び感想

Opening Lecture

刺激的であった。各国の活動的な学生 5 名がそれぞれの活動について発表を行った。特に中国において、情報開示の不平等さに不満を感じ大々的なデモを行うまでに至った女学生の話が一番興味深く、世界で同年代の学生の活動的な話を聞く「自分にも人を巻き込んで何かできるはずだ」と勇気づけられた。

Joint Session

私は Joint Session において以下の 3 テーマ Problems of Youth Entrepreneurship, Innovations for Sustainable Development, Global Migration Issues: cultural dimension, working places and globalization のうち起業に興味があったので 1 番目を選択した。議論の最中では経営学の学生が多く専門用語などあまりついていけなかったが、学科が建築出身である私に、不動産でビジネスをしたいと考えている学生と意見を交換することが出来たので、異なる学科出身であったことで話の幅が広がることもあると言える。

Summit

今回私はサミットを通して多くの気づきを得ることが出来た。そのひとつが、日本は、移民や多様な民族が一つの国(制度)の中で生活している環境下で異なる価値観を持つ国民にとって公平な政治を、責任を持って実施していくことに対する経験が少ないということである。たとえば日本は、affirmative action (積極的差別是正措置、雇用・教育などで従来差別されてきた女性・少数民族などに対する積極的優遇措置[ジーニアス英和大辞典])という制度はあまりなじみがない。しかし、移民を多く受け入れてきた国々は文化的背景が異なることにより教育レベル、生活など求める条件が異なる中で、如何に公平にかつ国としてひとつの制度の中で運営していくか、試行錯誤をしながら模索してきた歴史



No3 Summit の休憩時間の様子

と経験がある。やはり日本は人種が近く文化を共有する国民が多い中、つまり単一民族で暮らしてきたのだと思う。今後移民が確実に増えて行く環境において日本は、他国の取り組みに学ぶべきかもしれない。

しかし経験の少なさを単純に日本のグローバル化が遅れていると捕らえるのではなく、長く似通った文化の中で暮らしを営んでいる国である日本だからこそその良さもかならずあるはずである。

議論の中でよくみられた、G20 に参加する先進国がその他の途上国に如何に実権と責任感を持って人権や教育など人間的価値を(先進国がそう思うもの)与えて行かねばならないという構図であった。私は十分先進国である日本も教育の面では「ひきこもり」「ニート」等問題を抱えているし、他の先進国も問題を全く抱えていないわけではないのではないか、と考えていたため議論の中で問いかけてみた。幾人かの賛同は得つつも、もう少し今後の世界のあり方、人にとっての幸せということについては、議論が必要であるということになった。

反省点としては、国連が設けた枠組みや、UNESCO 等の国際機関の動きについての調べが不十分であったよう思う。調べていけば G20 での議論へより積極的になれただろうと思う。

Opening and closing Dinner

さすが、世界各国の優秀な学生である。議論は白熱しても互いに時間をとって説明するなど互いへの気遣いはよくしていたし、社交場面でも互いへの尊重が精通しており心地よく時間を過ごすことができた。東工大からの参加女学生 4 名や他の日本代表の学生(筑波大学から日本に留学中の外国人や、カタルに留学中、スイスで働いている日本人等、世界中から人が集まっている様子が分かる。)G20 への参加



Opening Gala Dinner の食事会の様子

を通して交流

を深めることができた。

G20 中の社交面の力の入れ具合(贅沢さ)も注目である。昼は立食形式が多く、夕飯はパーティとダンスや生演奏などの余興も多くあった。特に Closing Gala Dinner では、生演奏、食事、ダンス、ド



Closing Gala Dinner 日本代表の Delegates の集合

イツの伝統民族衣装貸出し(有料)があった。私もこれを利用し、夕飯の後伝統のドイツの踊りを教えてもらった。今回 G20 に参加することを決意して、受け入れてもらい、実際に参加する中で改めて世界の中での日本の立ち位置という構図を理解した気がする。欧米含め色々な国の人々のいる雰囲気の中になると、常に「私はどう思うの?」と問いながら過ごすことになる。国際交流はストレスフルでもある、しかしそれはとても興味深い。



④ 留学費用

プログラム参加費: 約 14 万円+送金手数料約 5000 円+銀行書類準備費約 3000 円

渡航費: 往復約 11 万円

保険料: 約 4000 円

Opening/ Closing Gala Dinner 衣装借用費: 約 2 万 5000 円

その他(ドイツ国内移動、交友、3 日観光): 約 3 万円

実際は計、32.2 万円です。ありがたいことに、東工大基金から、奨学金 6 万円をいただくことができたので、自身で払いましたのは奨学金を差し引いた 26.2 万円です。私はどうしても海外へ行きたいという心持ちで参加し致しましたので、後悔はありませんが正直なところ参加費用が高いプログラムだと思います。(恥ずかしい話ですが、プログラムに受かってから参加費を 5 日以内に送金せねばならず親から借金をしました。)その分プログラム規模や内容、主催側のフォローの手厚いプログラムです。

⑤ 留学先での住居

プログラム参加費に滞在ホテルは込みでした。ダブルとシングルのうち、私はダブルの参加費を払いました。希望があればルームメイトは事前にこちらから指定することができたので、同じ東工大の参加者と同じ部屋でした。プログラム参加者はそれぞれ 4 つのホテルに分かれて宿泊しました。私の部屋はキッチンやバスルーム付の洒落た大き目の部屋でした。クイーンサイズほどのベッドをルームメイトと共有という点において知り合いと同じ部屋で気楽に宿泊できて良かったと思います。

⑥ 留学先での語学状況

プログラムは完全英語で、英語が第一言語の国の人、そうでない国の参加者もいますが議論が始まると難しい言語も出てくるのでかなり高度です。ただし、議論についていけない際ほかの参加者に分からないことを聞くなどすれば教えてもらえる

ので、英語があまりできなくても、いろんな人と触れ合って成長したい猛者には良い機会かもしれません。

⑦ 単位認定

自主的に参加したプログラムなので、単位認定はありません。

⑧ 留学経験を今後、どのように活かしたいか

留学といっても実際は 3 日間の短期留学プログラムです。もっとも印象に残ったのは、日本が単一民族であり出生率が低く国力維持のためには移民を受け入れることが必須である中でどのように国として成り立たせていくのか考えねばならないということです。本プログラム参加を通して国際連合や G20,G8 など、既存の国際的な枠組み、その中で人間として合意のとれた共有されるべき権利など、積極的に知りたいと思うようになりました。短期プログラムであり、自分自身の何かが確実に変わったとはいいいくいますが、考え方や視野を広げることにはつながりました。

⑨ 留学先で困ったこと(もしあれば)

もっと国際的なニュースについて知っていればより深い議論ができたと後悔しました。

⑩ 留学を希望する後輩へアドバイス

本プログラムは、英語を勉強しに行きたいという人向けではないと思います。しかし、さまざまな国のしかも高いレベルの教育を受けている活動的な学生がわんさかいる場に参加できるプログラムです。私の場合は「自分がいろいろな国の学生と実際のところどれくらい渡り合うことができるのだろうか」という問いと、勢いだけで参加したようなものです。(余談ですが、本プログラムに参加する際研究科の先生方の専攻会議で許可をいただく必要があります。許可自体は職員の方を通して依頼するのですが、プログラムの名前がすごいだけインパクト大なので専攻会議後「〇〇さんあの G20 参加するんだって?がんばって!」と先生方に一言だけしました。)国際的な刺激、社交的な刺激、(東工大生/他の国の学生)出会い、そのどれか一つでも「ほしい!」と思った方はチャレンジしてみてください。そして受かった際は、自分なりに自信を持って参加してください。議論で積極的に話すもよし、話す内容が無いなら「自分はまだまだだな。でももっと知りたいことができたぞ」と自分の現在地を知るも良しです。社交イベントでは、ぜひ前のめりに楽しんでください。一生のうちの 3 日間です。「せっかくなので」私はドイツの思い切った民族衣装で、参加者全員の前でドイツの伝統踊りをプログラムで知り合ったオーストラリア人の男性と踊りました笑